

まぶくま ABUKUMA ROMANTIC ROAD

ロマンチック街道

か  
つらお

ABUKUMA ROMANTIC ROAD



ずにおとなしく寝ていてくれま  
すが、牛は力づくで逃げ出そう  
とするものですから、牛の扱い  
に慣れるのはしばらく時間がか  
かったといえます。

その、馬小屋だった牛舎も、  
住む牛がいなくなつて久しくな  
りました。かつらおで馬のいな  
なきを聞いた世代は少なくなつ  
ていきます。

家畜を飼うのは、馬や牛を育  
つて生活の糧とするためですが、  
同時に、彼らのつくる豊富な栄  
養素を含む堆肥をとるからでも  
ありました。

いい家畜から得られる良い堆  
肥。そして肥沃な大地が、いい  
作物を作ります。

かつらおの昔ながらの味の  
数々は、そんな風土から生まれ  
たものでありました。かつらお  
で食すものがおいしいのは、そ  
ういうわけだったのです。

## Vol.8

2015年3月発行



あぶromaは、国道399号線をつながらる5市町村、飯  
館村、浪江町津島、葛尾村、田村市都路、川内村の元気  
を発信する協議会です。震災によって失われつつある  
ふるさとの味を残す活動を続けています。今回の葛尾  
村は、あぶromaの中心に位置する小さな村です。

## あぶroma街道風物史

5市町村



# 古の駒のいななき

事務局：〒979-1201 福島県双葉郡川内村大字上川内字八窪五〇八の2  
E-Mail: info@abukuma-r.jp URL: http://abukuma-r.jp/  
あぶくまロマンチック街道構想推進協議会



# 天高く馬肥ゆる葛尾

馬とひととがいっしょに暮らしてきた村  
かつらおの食生活は  
そんな日常に支えられていた



福島県東側の尾根筋となるあぶくま地域。昔々は馬の一大産地でした。ここ最近では和牛の繁殖肥育農家が一般的になっていきましたが、かつては農作業にも馬が大活躍していたものでした。

馬は、牛に比べると力では劣りましたが、人間の望んでいることをより理解してくれます。なのでむずかしい作業をするときには、馬が好んで使われたといえます。

とはいえ、この地域で圧倒的に育てられていたのは、農耕馬ではなく、昔なら軍馬、最後に村で飼われていたのは、競走馬でした。福島浜通りの名物行事に、相馬野馬追いがありますが、葛尾の馬の中には、この晴れ舞台に借り出されていく馬も少なくなつたといえます。

あぶくま地域はおしなべて山

の中ですが、それでもなだらかな地形が多いので、馬を育てるにはいい環境が整っていたのかもしれない。ここで育てられた馬は、中央競馬などにも挑戦した他、福島競馬で大活躍をしたということ。

馬はおとなしいので、小屋は民家と隣接していたり、あるいは一つ屋根の下で人と馬が暮らしていたりもしました。お嫁さんはお姑さんに、子どもが泣いてもそのまま寝ている、しかし馬が鳴いたら一大事と言われたそうです。馬は、それだけおとなしく、そして大事にすべき家族だったので。後年、馬の需要が減って、馬小屋で牛を飼うようになりました。牛が暮らすには天井の高い、立派な牛舎が多いのは、そんな背景があったのです。馬は横棒一本で逃げ